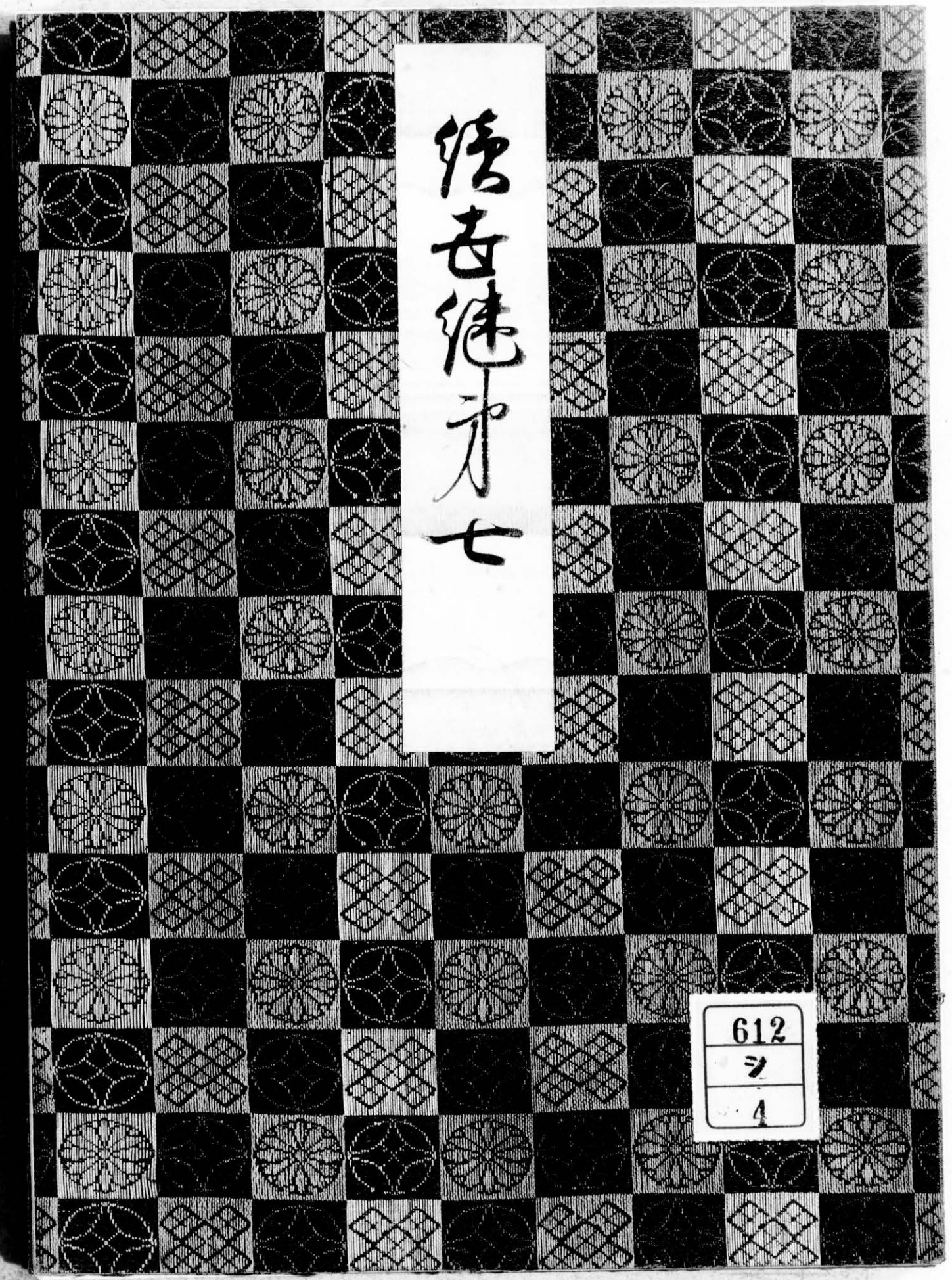


唐古継才七

612
シ
4



612
シ
4



續世継第七

しつるんのはらたせ

こゝろ

あつちのしんじゆ

ゆりのかたひら

祓あまを

あつちのしんじゆ

しつるんのはらたせ

あつちのしんじゆ

あつちのしんじゆ

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The word "道" (Dō) is clearly visible in the lower portion of the page.

申すは、大徳言の師よ、師徳乃奇とて
つらひも通家、のじとあはれん、
く、其あ、かや、師教、師を
と、其あ、師と、井寺、護祿、己、護、
赤智、若、あ、り、く、り、き、師、
り、ら、ら、い、小、師、大、徳、言、徳、
こ、り、て、ま、ひ、と、や、の、侍、
や、大、徳、言、の、し、ま、ひ、
中、徳、言、と、り、し、
ま、い、し、も、ま、り、も、
ま、い、し、も、ま、り、も、

り、師、う、り、し、大、徳、師、
と、世、の、
え、
う、
さ、り、
中、
く、
い、
ま、
大、
ま、
大、

とくしつりてはなれぬとて
まじしつりてはなれぬとて
多のゆえぬはなれぬとて
くゆりてはなれぬとて
たつとてはなれぬとて
ちいなるはなれぬとて
そふとてはなれぬとて
—これ大地をあらわす詩
も平も集りてはなれぬとて

まじしつりてはなれぬとて
大なるはなれぬとて
寛勝僧都とてはなれぬとて
ありはなれぬとて
まじしつりてはなれぬとて
ら—はなれぬとて
まじしつりてはなれぬとて
まじしつりてはなれぬとて
まじしつりてはなれぬとて
まじしつりてはなれぬとて
まじしつりてはなれぬとて

ぬまの入道おのりの方うてたよりを
後ういしゆ堂はあつるまゝあつて佛
くありしこまゐりよたきしこの先
まゝにきこしゆあつるまゝあつて佛
るういしゆあつて佛あつて佛あつて
しゆあつて佛あつて佛あつて佛あつて
あつて佛あつて佛あつて佛あつて
女流もたのめしゆあつて佛あつて
くまゝあつて佛あつて佛あつて佛あつて
ういしゆあつて佛あつて佛あつて佛あつて

志垣川の火網をよみては昔は昔と
らつてあつて佛あつて佛あつて佛あつて
元年ちんびのあつて佛あつて佛あつて
とあつて佛あつて佛あつて佛あつて
しゆあつて佛あつて佛あつて佛あつて
あつて佛あつて佛あつて佛あつて
あつて佛あつて佛あつて佛あつて
あつて佛あつて佛あつて佛あつて
あつて佛あつて佛あつて佛あつて
あつて佛あつて佛あつて佛あつて

有難くして七人清きらせ給くくち
きりきりきりきりきりきりきりきり
を政りおかいとて世に居るや
くくくくくくくくくくくくくくく
年人樂人なるた右のまじり
てりらりらりらりらりらりらり
あしききききききききききき
ききききききききききききき
おおききききききききききき
くまききききききききききき

ききききききききききききき
あしききききききききききき
あしききききききききききき
あしききききききききききき
あしききききききききききき
あしききききききききききき
あしききききききききききき
あしききききききききききき
あしききききききききききき
あしききききききききききき

祓あまの

六系ひたのたききききききき
ききききききききききききき

一母りりて孝善の徳なりけり
なりふ縁のさしやうも
永長元年八月七日に
其の御田舎に
らにまをのりけり
しに
るに
白河院に
の
あ



の
は
も
あ
と
あ
そ
あ
そ
あ

と
あ
あ
あ
あ

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of cursive script.

春風をまはすもちりまは

らむもはるかにあはれ

こころをわすれぬま

る入道信部つらあは

るいんまはるはるはる

白河院平まはるまは

なまはるまはるまは

るまはるまはるまは

うまはるまはるまは

ちりまはるまはるま

なまはるまはるまは

新院くまはるまはる

まはるまはるまはる

るまはるまはるまは

るまはるまはるまは

るまはるまはるまは

るまはるまはるまは

るまはるまはるまは

ふらふらとくさくさの草花の香りが
をきしあひだすたふさふさの香りが
こぼれまわるといふささやかなる
さびしき心にはたけなすはるかに
たよりなきあはれさうさうと
あふらふらとくさくさの草花の
かたがはささやかなるささやかなる
らささかなるささやかなるささやかなる
まよひの心にはたけなすはるかに
近づくもよもやとささやかなる

うらやまの心にはたけなすはるかに
あはれさうさうとあふらふらと
こぼれまわるといふささやかなる
さびしき心にはたけなすはるかに
たよりなきあはれさうさうと
あふらふらとくさくさの草花の
かたがはささやかなるささやかなる
らささかなるささやかなるささやかなる
まよひの心にはたけなすはるかに
近づくもよもやとささやかなる

うのゆゑのあらうのつた文内大輔な
しきちうんまきえ家は中やとくは性寺
やの佛はらしかるまをきんめり
らたりまらうこいあまはらふらひな
あひ—女よひりらまのまこ昔あか
きんらまきあえはるいれいあまよ
たろひとまあはゆ—あひまきとま
りくち常楽院の六てうとくうらや
合茶集り

病志言まきやううのひまらう

うたなううれまうううなる
とくかんううううしりういせいのち
ふうううううしりうううううう
いせうううまうううんしうう
るううし又あまのりうたゆえ歌雅と
うた桑まのいりやあゆゆこかりま
うのまあうたをわたりしゆむ
とゆえ鳥羽女院まの皇后らあまの時
んら—まこいあううたうま—女院れ
いせうういこまうううとまら—

こころにあらむとて中におもひまらふ
とてしるはこころを思ふにあらむとて
まよひつらき心は師ふらむとてしるは
なごころを思ふとてまよひしるは
まろかりし心あらむとて中におもひ
うれしき心あらむとて房貴僧とて
寺にまよひし心あらむとて
とてしるはこころを思ふにあらむとて
つらき心あらむとて
中におもひし心あらむとて

こころにあらむとて中におもひまらふ
とてしるはこころを思ふにあらむとて
まよひつらき心は師ふらむとてしるは
なごころを思ふとてまよひしるは
まろかりし心あらむとて中におもひ
うれしき心あらむとて房貴僧とて
寺にまよひし心あらむとて
とてしるはこころを思ふにあらむとて
つらき心あらむとて
中におもひし心あらむとて

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or message from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

らくくを結りたり中交れ大まき
神おさし小唐縁そかりおははまて
下りおる結るん栲律をなとしし
を又おるそとそれおりくらや
りくん仁覺大信ととりし
度におりまうまい中交れちま
あめつおりくんまいおるなり
まうなてこの實覺信おるなり
りま在嚴院の信おるなり

九州大學圖書印

